



一般質問

町政を問う

9月定例会

9月定例会

長島 正一 議員
当町では、菌床しいた
け生産団地を有している
が、菌床の自家生産の考
えは。

A black and white portrait of a middle-aged man with glasses, wearing a dark suit, white shirt, and patterned tie. He is standing behind a podium with microphones, looking slightly to his left.

A 新種きのこに期待

略を構築するチャンスだ。原木しいたけは直売所の人気商品だ。当町の山林資源を活用し、新たな生産システムで取り組む

児童達は通常と変わらず元気でしつかりと学習している。

雪害復旧工事は9月末に完了し、教室は10月から使用する予定だ。

今回の被害について、最終的な総括を行い報告する。

答弁を求める。

私は3月講会において頓原小学校の雪害について一般質問したが、その後の復旧状況はどうか。

また、児童達の学習面、精神面の状況についての

Q 頓原小の雪害後は

A 耕畜連携で考える
Q 汚染稻わら対処は

山崎英樹町長

私は、中高一貫教育と
ゆとり教育の弊害がある
と理解している。

教育長は、義務教育を
充実させるのか、それと
も学習支援館による学習
塾で学力向上を目指して
いるのかを問う。

安部教育長

中高一貫教育について
は、現在のところ残念な
がら検証していない。

学校教育の充実と、学
習支援館による子どもたち
の学習の習慣づけをす
ることの両面で、今後の
学力向上を目指したい。

肉が出荷されていた。
現在も汚染稻わら・堆肥は保管されている。牛未満であつたが、この現実をどう考えているのか。生産者の不安にどう対処するのか。

農家は大変な不安と失望をしている。説明責任はどう取る、情報公開はされるのか。

また、町は地産地消と叫ぶが、稻わらは使われていない。これを収集する具体策を講ずるべきだ。

暫定基準値以上の堆肥は、國の方針により処分する。また基準値以下のものも農産物生産には使わない。

これらの問題について J A 雲南は 8 月 24 日、集落共同組合長会で説明し、広報誌へ掲載、H P でも情報公開している。町としても、地元へ逐次情報を提供していく。

町内産の乾燥した良質稲わらの確保は、本町の気象条件では難しい。集落畜産を念頭に置き、稲わら収集機の導入助成を行い、耕畜連携の仕組み作りを検討する。

全国と牛登録協会 上坂章次会長(当時)の揮毫による記念碑(昭和54年10月12日竣工)
和牛振興3条件
「人づくり・牛づくり・草づくり」

A 再稼動の考え方

長島議員 J.A.の肥育事業縮小計画により、本町の2肥育センターが廃止されるとになった。循環型農業を目指す本町のイメージダウンにつながるが、方策はどうか。

雇用の場である加工分野へ波及すれば深刻だ。影響をどう考えているか。

稻わらから放射性セシウムが検出された事件は堆肥センターにまで波及した。この機会に農業コントラクターを立ち上げるべきだ。

ムの事件があり中断している。

J A の肥育センター事業は開始時の平成6年では、農家数2425戸、繁殖牛5905頭だったが、現在は農家数516戸、繁殖牛19991頭だ。

肥育経営の状況は枝肉価格の下落、国による価格補填の減額、飼料の高騰などにより経営が悪化している。

肥育頭数の減少でミートセンターは和牛の取り扱い数量の減少を、豚、鶏

山崎町長

農業コントラクターは
今後検討する。